

撫順炭坑件

秘

MT 11248 00051

REEL No. 1-0070

0032

撫順炭坑ノ件

第一、沿革

(1) 撫順炭坑ノ地域 撫順炭坑ノ地域ハ渾河ヲ以テ南北を
分其河南ノ部ハ更ニ渾河ノ支流タル楊柏堡河ヲ以テ東
西二分ル其區域大要左ノ如シ

河南 (一) 河西一李二石寨、大廟七小廟屯、吉城子、千金寨
(二) 河東一楊柏堡、老廟、官道達屋

河北 (一) 河西一李二寨ヲ除ク外九テ華興利公司ニ屬シタリ
(二) 河東一九テ撫順煤礦公司ニ屬シタリ

右ニ對スル開採権利者左ノ如シ

河南 (一) 河西一李二寨ヲ除ク外九テ華興利公司ニ屬シタリ
(二) 河東一九テ撫順煤礦公司ニ屬シタリ

河北一何毛溥裕公司ニ屬シタリ

元美談煤田附近清朝鐵祥地ニシテ西福陵アリ東ニ承

陵アリ祖室、望域ニ屬スルヲ以テ古來嚴ニ之ヲ封禁シテ開

墳ヲ許サル、ストナカリシモノノハ勿シ、

(1) 河南煤田、開採着手、光緒二十六年義和團、麥亂ニ

葉レ露國烏ラ滿湖ニ達、盛ニ侵畠ヲ企テ鍛造ヲ敷設

スルニ至リ其沿線附近ニ於テ石炭ノ必要ヨセスハヤ往來

清人、據据ニ看守セリモノ及主開採ノ煤田ヲ各所ニ擇定シ

砂河子、烟台、瓦房店等ニ着手ヲ試ミ以テ撫順、開採ヲ

為サントスルモ古來封禁ノ事情アルニ依リ其着手稍困

難アリシカ而方之ニ對スル手段ヲ盡シ遂ニ王承堯、翁壽

ノ名義ヲ以テ各銀壹萬兩ヲ國庫ニ報效し河南ノ開採

權ヲ得テ其封禁ヲ打開シ楊柏堡河東ハ翁壽ノ名下ニ

其河西ハ王承堯ノ名下ニ始メテ着手ヲ見ルニ至リシト

是正し嘉慶二十七年九月ナリ、

MT

11248 00053

MT

11248 00052

REEL No. 1-0070

0033

(八) 楊柏堡河西於ケル創業、總辦王承堯、臺下河西

龍船岡ニ一坑ヲ開キタルニ間モノナク出炭ヲ見ルニ至リ非常

ノ好望ヲテ採掘セラレタリト云フ

(二) 楊柏堡河東於ケル創業、楊柏堡老席山莊ハ河東、
地ニテ總テ前壽、採掘權ニ歸シタルモノナリシカ開坑ノ當
初位置、擇定不適當ナリシ為メ劣炭ヲ見サル事情等アリ
テ、餘リ好望ニモ非ス後テ出賣者少ク又創業ニ徒勢多
カリシ為メ通ニ紀風台ノ手ニ其採掘權利ヲ移轉スル、機
會ニ至リ(露國民用商人ルビノヨリ之ニ開係セリト傳フ)通
ニ之ヲ紀ニ賣却シタリ其賣却價格ハ七萬兩ナシト云フ、
(ホ) 王承堯(楊柏堡河西ノ創業者)下紀風台(楊柏堡河東
創業繼承者)ヲ、開於ケル訴訟事件、河西、創業ノ出
處遠カニテ好望ナリニ及ニ河東ハ開坑、位置不適當、為

ノ出炭ヲ見ル能ク失費、多々ナシテ前連ノ證書ガウシ等ノ事
情、為メ紀風台ノ権利者ニ採掘權地ノ境界糾争ヲ起ス(キ
計署ヲ畫出シヨリ一大訴訟ヲ提起シタリ、此紛争ハ光緒
二十六年半ヨリ四五年三月リタル後本解行ハレ楊柏堡河ヲ
以テ依然界トナスニ決定シタルモノ、如シ)

(ヘ) 華興利公司ノ設置、河西、創業者王承堯ノ前項、訴訟
其他事業上ノ失費、為メ當初、資金欠缺シ漸ク不如意、
ナリタリ茲於テカニ路清銀行ハ此機ヲ利用シテ出資六萬
兩ヲ為ミ(一種ノ株式會社組織ニシテ路清銀行、出資ハ其實
至ニ至ル七千五百兩ヲニシテ拂ムニタル由)此ニ始メテ其
實ニ於テハ全然路清合同、經營事業トナリ、開辦當時ヨ
リ使用レキシル華興利煤礦公司(ナムル名)下ニ其河西、事業
ヲ繼續シタリ、是今ノ所謂千金塞岸坑ナリ

MT

11248 00055

MT

11248 00054

(ト) 摺順礦礦公司創設、前記諱諱、經過、如斯ト曾モ裏
雨於テル紀鳳山^シ、計畝ハ大也其目的ヲ達セヒト同時ニ續テ
河東採掘、結果大ニ有龍ナシ至クタルテ以テ紀鳳山ハ其後第
紀成林十九モノヲ楊柏惺ニ派遣シ之ト同時ニ露人、侵夏モ來、
テ河東、經營ニ焉手し順海事業ヲ進メタリ是其名ノ紀鳳
台、採掘權ニ借りシト雖ミ其實ハ純然タル國、事業ナリレ
コトハ既又一船ノ認タル所ナリトス。

(千) 河北煤田、開掘、河北煤田、開^{シテハ}大清二十七年十一月候
遼右縣丁汝雋、候補驍騎、騎校魏豐心等、清國人五人八千
兩ヲ貲率トニ一千兩ヲ礦稅、先拂及勸効銀トナシ決シテ外
人ヲレテ其事業ニ關興セシメサンヲ鑿定地域ヲ劃シテ開掘觀
書ヲ提出シタルニ四二十八年十二月一日許可ヲ圖ヘラレ同ナ一日ヨリ
採掘ニ着手セリ然ニ專賣力不足ナリシ基ニ同公司ハ事

石門塞ノミテ開掘シ向龍山、土口子ハ六金公司、太婆公司、
純然タル清國人ノ商社^社タリ、僉鹽^{シテ}開掘セシメ採炭百斤
三升二十斤ヲ一枚メシルコトニ定ム而シテ其實與開掘六期限ヲ
定メス兩當事者ニ於テ任意經濟廢約シ得ル前協定セリ
然レバ此三百日當戰役、為夫猶三十章二月以来其
作業ヲ停止シタリ導祐公司現奉天大東門外堆祚市
在リ目下強ニト當事業ヲ為シ居ラサル趣ナリ

第二、炭坑還付ノ要事

(一) 河西炭坑

明治三十九年四月清國外務部ヨリ右箇内因ニ便ニ對し清
南王承竟ノ經營セル華興利煤礦公司^シ千山河西炭山一所
謂河西炭坑^シ、採掘總事ユルモノニテ彼ノ露人、經理セシ
撫順公司トハ何等、關係ナキモノニシテ支那三十二年二月其

MT

11248 00057

MT

11248 00056

前日本軍篤「聲明」置キタルニ何等圓満ナキノミナラス同
三月七日ヨリ該公司作業ハ禁止セラレ日本人小山田淑助ナル
者之ヲ占據シテ迄ニ作業シ止ムルニ就テハ日清協約第四条ニ於
テ現ニ占有せん清國私利名財產ハ撤去ノ時ニ於テ起シ清國
官國引渡スヘント、規定ニ基シ速ニ右炭坑ヲ該日本人ヨリ
華興利石司ニ又還スル様取計シ度ノリ同司ノ願出ニ基シ照
會アリ該ニ於テ帝國政府ハ八月末ラ以テ在清林石價ニ訓令ニ
ハニ該炭坑ハ明治三十一年以来全ク露國人ノ經營ニ屬シ專
ラ東清鐵道ノ利便ノ為ニ操掲セラレ居タルモノニシテ後テ日露
講和条約第六章ニ所謂鐵道ノ利益ノ為メニ經營セラル、炭
坑トニテ當然帝國政府ノ有ニ歸シタルモノナル該ヲ清國官憲
ニ照覆スヘキヲ以テ且ツ該炭坑ニ關スル清國人ノ權利ハ結局
全然之ヲ無視スヘア能ハサルヤモ難計ニ付其節ニ別ニ方當

設ケ其需要ホラ滿足セシムル必要モアルノナレ民右ハ清國政府ト
ノ文書成行ニ依リ更ニ詮議ヲ述ケルフトニ清國政府ニ對
シテハ鬼ニ角一應前記ノ趣旨ニ依リ因縁スヘキ稱附言セリ
越テ同年十月ニ至リ奉天將軍モ東洋文ラ以テ千山台(撫順)
炭坑、採掘停止ヲ在奉天萩原總領事ニ申込ニ至レリ白ク
千山台炭坑ハ本ト官有ナリシモ清國王承堯寺ノ計劃ニ依
リ華興利礦石司ノ名義ナリ往年將軍廢ノ許可ヲ
得テ草務ヲ開始シタルモノナルカ右之司ニ對ニテハ露清銀行
持株有リト被モ事實露清共同事業ハ非ス強ニ該持株
チ組入ル件ハ未タ北京外務部ノ批准ヲ經サルモノナリ從テ清
露間契約ニ依リ兩國ノ合辦ニ属スル他、礦山ト同視スカ
不然ニ右炭坑ハ目下日本人、右有採掘ニ歸ニ居ルニ付滿洲
關スル日清協約ニ依リ還付ヲ考ク、キ安ナリ殊ニ往年王承

支那等開拓の時、於テハ規定ニ依ル納稅ノ義務ヲ盡シタルニ日本
ノ占據以來一年有半ニ亘リ毫モ納稅シタルヲナシ本件ハ現ニ北
京ニ於テ支那満中ナム不敢一時ノ便法トシテ日本總領事ヨリ
該處占據ノ日本軍隊及人民ラニテ其行動ヲ停止セシムラ度
レ云々

依テ帝國政府より記林云使ノ訓令ト同一趣旨ヲ以テ奉天將
軍ノ照會復セシメ該坑ノ採掘停止ノ儀ハ到底清國官憲ノ希
望ニ應スルコト能ハサル上而ニ至セシメタリ

尋テ同年十二月中旬又ミ前奉天將軍ヨリ其原總領事
ニ對し千山台炭坑ハ王承堯ノ權利ニ居リタル確的ノ詔
擄アリ且フ右炭坑ハ南滿洲鐵道ノ兩側三十清里外ニ在リテ
東清鐵道會社カ條約上萬餘採掘ヒ得キ區域外ニ在ハニモ
照會ニ未リ當ホ北京外務部ヨリモ林云使ニ對し同様ノ文書
ヲ為シまえり然ニ右三十里空義さんモハ曾モテ露清間ノ合
意ニ依リテ確認セラレタル形跡ナク萩原總領事カ奉天
將軍廢ニ就キ取調ヘタハ處ニ依ルモ黑龍吉林西滿テハ
露清間ニ調印シタル協定アル趣^ナルモ奉天省ニ附シテハ何等
ノ協定成立ニ居ラサルヲ確實^ナルカ如シ旁以テ帝國政府依
然當初主張通り露國カ後前東清鐵道ノ利益ノ為メ
採掘セル炭坑其初ノ同鐵道附屬ノモノタリシト名トニ拘ラ
ス「ボーマス」条約及滿洲條約^ナルモ於テ承認スル處^ナルモ
趣^ナル^トハ清國政府ノ要求ヲ峻拒ス^キ旨四十年三月初
旬ヨリテ林云使及萩原總領事^ト電訓シタリ
然ニミ五月中旬ニ至リ在本邦楊清國子使^ハ林云使^ハ日本
詔開シ本國政府ノ訓令ナリトシテ撫順炭坑ハ前年王承

MT

11248 00061

MT

11248 00060

REEL No. 1-0070

0037

堯ニ特許シ興へ同人ハ已ニ約十萬兩銀日本ヲモ投シ操擬ニ經
事ニ居リタル儀ニテ向炭坑ヲ滿鉄ニ興フルハ清國政府ノ承認ス
ル能リサル處ナル上也ナシ「タルニ依リ外務大臣ハ之ニ對し撫順炭
坑ノ參約ニ依リ萬然我ニ歸屬レタルモノナモ王ニシテ事實經
費ヲ投シ居タル儀ナハ其情狀ヲ酌ミ滿鉄ヨリ救恤的ニ多ナ
金額ヲ従與スニ絶對ニ由來難キニモ非サルシト善ヘタル方
當時王承堯ハ奉天ニ居リタルヲ以テ本人ヨリ直接後藤滿鉄
總裁ニ相談シテ可然后ラ清國ニ使ミシテ右、斯後藤總裁
ヘ通告セリ、而ヒテ王ハ七月ニ至リ奉天ニガテ一度後藤總裁ヲ
訪問シタルモ總裁事一政アリシ為メ佐藤ナ佐代リテ而會セシカ
其後總裁ニ於テモ王ト會見セシコトラ空ニ居タルモ王旅行中ニテ
遂ニ其意ヲ果サリキ。

因ニ云フ李年三月頃在露帝國大使館附田野通訳官

聞知ヤシ所ニ據レバ王承堯、操權權、露清銀行カ已ニ全然
之ヲ同人ヨリ譲リテ又居リ同銀行ハ平和克復後右炭坑
カ日本政府ニ譲リ渡サシタルヲ知リ其賠償方ニ付キ露國
外務省ニ逼リタル處外務省ハ大藏省ト相談ノ上賠償
トニテ九十九萬餘留、金額ヲ同銀行ニ拂込シニ決シ最
早ヤ此拂込ヲ了シタル旨大藏大臣ヨリ外務大臣ト通知シ
タル文書外務省ニ存在スル趣ナリ

越テ本年二月初旬ニ到リ露國外務省ハ駆露本野大使
ニ云文ヲ致レテ曰ク撫順煤田華興利公司株券一部ハ露
清銀行ノ所有ニ係レリ然ルニ後藤總裁カ露清銀行理事
「オチロフ」ニ詠リタル所ニ依ヒテ該炭坑八日本政府、財產トシテ
満鉄ニ移轉セラレタルモノ、由ナルカ頃日、情報ニ微スルニサ
興利公司代表者王承堯ハ該炭坑、下炭名クハ要價ラ日

MT

11248 00063

MT

11248 00062

REEL No. 1-0070

0038

清兩國政府ニ屯メアルカ如レ乾テハ日本政府ニ於テ本件ヲ處シセラル、際ニハ必ス露清銀行、利害ヲ考量セラレ度ク且該公司ニ要求ニ應セラルニ先ナ在東京露國大使館、意見ラ貨サレシヲ布望ス、該炭坑ヲ日本政府ノ所布ナリト決セラレタル理論上ノ問題ハ暫ク擱キ露清銀行政府ハ日本政府カ露清銀行行興ヘラル、年四至六月間カニ事ヲ砍ス迄ト之ニ對シ帝國政府同月廿一日野大使チニテ露國政府ニ三回ノシテ曰ク該炭坑ノ開レテハ清國政府ヨリ屢次還付、請求ヲ提出シ更リタルアリシモ元來同炭坑ハ其當初何人ニ許可セラタルモノナルヤニ拘ラス其後ニ至リ事實上露國ノ掌握ニ歸ヒ東清鐵道ノ利益ノ為ニ候當セラタルハ疑フ、カラサル事實ナルヲ以テ帝國政府ハ日露媾和條約及ハ滿洲ニ開スル日清協約ニ據リ完全ニ帝國政府ノ有ニ歸セタルモノト認メ之ヲ南滿鐵道ニ對スル出資ノ一部ルモノ、ナリ。

(二) 河東炭坑
撫順炭坑中楊柳堡河、東部ニ存瓦礦區(所謂河東)ノ前述ノセラル、請求モ斷然之ヲ拒絶シタル義ニシテ帝國政府ハ露清銀行又ハ王承堯等ニ對シ何等損害、賠償等ヲ為ス、キハ肋合ニ斯ルハ勿論ナリト認ムモノナリ云々ト當當時在奉邦露國不使ニ於テモ其我ト同シタ帝國政府ニ於テ何等賠償ノ義務ナキモノナルコトヲ認メ其趣奉國政府ニ電報シタルモノ、ナリ。

MT 11248 00065

MT 11248 00064

支綫ハ同會社ノ利的施設ニ屬スルモノナルカ政ニ同ノ之ヲ下渡フ
曼度而我外國人私有財產整理委員長ニ對し申請シテ
トリ、依テ該委員會ニ於テハ權を審議ヲ司ケタル末同十一月
ヲ以テ右申請、目的タル炭坑ハ東清鐵道ノ利益ノ為メ操
據セラレタルハ争フカニサル事實ニシテ又同礦ニ近長セラレタん
鐵路「東清鐵道」枝線タルハ亦一處ノ疑ナレ政ニ該鑛山及
鐵路「ホーリマス」條約第六条第一項並ニ滿洲ニ開スル日清
條約第一款ニ基キ露清兩國政府ノ合意ヲ以テ日本帝國
政府讓與セラレタルモノニシテ此事實タル已ニ確定不動ノモ
ノニ屬スルカ故ニ帝國政府ハ到底下座ノ請求ニ應スル能ハズ
旨該申請人ニ通達ニ及ヘリ、

茲ル處奉年三月中旬ニ至リ在露本野ニ使ヨリ撫順煤礦
ノ司件ニ關シ其株主タル退職陸軍大佐「ビノフ」及「ハロ

」對し大要左、如キ譯言ヲナシタル趣報告ニ接セフ、
撫順煤礦公司、據據ニ係ル炭坑ハ其初々露清兩國人
ヨリテ組織セラレタル株式會社撫順煤礦公司アルモノガ光
緒二十七年中清國政府ヨリ借款ヲ得テ據據ニ居タルモ
ノミシテ後右株券ハ總テ「ビノフ」及紀鳳台兩名、買收スル
所トナリ而シテ此专名「右炭坑ヲ露帶千九百三年三月
露國極東森林會社ノ手先タリシ陸軍參謀中佐「マ
ドリイドフ」讓り渡シ同中佐ハ更二周年七月之中之ヲ前記
森林會社ニ譲リ渡シタルモノナルカ同會社「日露戰爭後
即ナ露帶一九〇六年七月之ヲ本國人「スミスナル者ニ賣

MT

11248 00067

MT

11248 00068 64851

REEL No. 1-0070

0048

シタルモノナリ。然ルニ右「スニス」ア讀後、其實所有者名義、
妻更タル止り該森林會社社長「バラシヨア」日本人、チラ達
テ權利ヲ回収エヌ方便利ナリト思惟、タム候事行ヒタル假裝
法律行為タルナリ、思フニ該森林會社ト「スニスト」ノ間ニハス
何等カ別個、秘密契約存在スルナル。

然ルニ「セーフ」及紀鳳台カ前記「アドリイド」、該炭坑ヲ讓
渡シタル當時ノ契約依テ其第二条ニ於テ「該炭坑カ今
後何人ハチレルトモルビ」、及紀鳳台右炭坑保有ヨリ生
ズル既無ノ二割ヲ得ルノ權利ヲ保留シアリ且此備款ヲ讀
リ慶ケタルモカ三年間事業ヲ中止シタル場合ニ於テハ此備款
ノ權利ハ何等ノ賠償ナクレバ當然、前記兩名ノ手裡ニ添スヘ
キコトヲ規定セリ、然ル處日露戰役並ニ四平街戰事有効
中ノ如キヲ不可抗力、時期トシテ之ヲ除クモ在年八月頃入

已ニ三年期、期間滿タニテスルニ拘ラス。森林會社及同會
社ヨウノ議事人、臺灣民事委員ニ青手ヤサルノミナラス前記兩
名ハ何等ノ通知ナクシテ同會社ハ該炭坑ヲ未入「スニス」
讓リ、後シタルモノナハカ故ニ一方前記三年間ノ期間滿テ、待
チ他方紀鳳台カ目下露國政府ヲ僅テ我政府、對元賠償要
求事件、該森林會社ニ對し訴訟ヲ提起セシム。又該
森林會社ハ該森林會社ニ對し訴訟ヲ提起
シテスル訴訟アリ而シテルビノ「紀鳳台」兩名ノ該炭坑、
廻スル權利が何ニ帰スルニ拘ラス。右炭坑、日本露國政府カ
日本政府、讓リ得ヒモノニ非ス、又日本政府、隨意處理ニ得
ヘキモノニ非スレ、金ク「ホーマス」條約規定以外、炭坑ナリト
シテ、臺灣國外務省、願出居トリ。

清前掲「クロモフ」カ以テ、事情ヲ田野通証言、物語ル量ナリ。

MT

11248 000696

MT

11248 00068

萬一「スミス」等カ何等カノ手段ラ以テ侵食一日タリトモ炭坑操縦
往事スルヨアランニハ或「前鎮」有權期間更三年間延長セ
テレンフヲ恐シニ出テタルモノニシテ之ヲ防ケハ日本人依頼スルノ外
ナシト思考シタルニ依ルモノナリ、之ニ對シ同通訣官ハ抑談炭坑ハ平
和条約ニ基ナ帝國政府カ露國政府ヨリ譲受ケタルモノニ付日
本政府ノ許可ナクレハ何ヘリ雖モ其様据ニ往事スルヲ能ハズ
又日本政府ハ未入「スミス」之ヲ許可スルモノナカルキ旨ヲ三言ハ
置キタル趣ナリ

(三) 稅率ニ關スル問題

抑モ北京會議録ニ依レ奉天省内鉄道附屬鑑山ハ已開未
關ニ拘ラスハ平詳細章程ヲ取極ムキコトナリ居リ又東
清鐵道續約第四条ニ依ルモ鐵道會社ハ其様据石炭斤數
ニ應シ納金ヲナスハ又右納金額ハ地方ノ稅額ニ超過スル

ナキードナリ居ルヲ以テ撫順炭坑ニ關シテモ亦右取極ム必要
アルノミナラス過般北京ニ於テ唐紹儀ヨリ我在清公使ニ對シ
右ニ關し開談、迄第ナリタル處在露奉天駐大使、報告ニ依レハ
露國ハテ撫順炭坑回復ノ為メ隨意三種タノ計画ヲナスモノ
ノアル趣ナルヲ以テ帝國政府ハ此際撫順炭坑（相台モ併セテ）
ニ關スル納稅額ヲ定メ開接ニ清國政府ニ對シ右炭坑ニ關スル
我權利ヲ確定シ他日露國側ヨリ何等ノ問題ヲ提起シ東ルモノ
清國側ヨリ故障ノ事ルノキ塗ハ之ヲ杜絕し直ク方得策ナリ
ト認メシク然ル處前記、如ク我納付スキ金額ハ他人カ同地方ニ
於テ採掘スル石炭ニ對シ納付スル稅額以内ナルキフトナワ居
ラムテ帝國政府ハ本年四月下旬ヲ以テ在奉天カ藤傳領事
童訓ニ同地方ニ於テ納付セル稅額ヲ調査セシメタル處清國
稅局ハ目下煙台、奉溪湖、牛心台等ノ石炭ニ對し出井稅ト

MT

11248 00071

MT

11248 00070

REEL No. 1-0070

0042

レテ山元賣價每公五，稅ヲ課し居リ又奉溪湖岸ノ賣際賣
價ハ一噸五六圓ナルヲ納稅ニ關シハ三圓内外ト見積り其高低ハ
清國稅局吏ノ手心依ル趣ニテ右ノ弘礦区稅トレハ（礦區）四十
礦界ニシテ一礦界八十或十（）ニ對し執照下附ニ限シ三十ヶ年ヲ
一期トシテ一百兩ヲ納稅セシメ當每年一礦區付五十兩ノ稅ヲ徵ス
ル規定ナル旨聞言アリシヲ以て自下南滿鐵道會社ヲシテ右稅
額等ニ關し更ニ精查ニ從事セシメ居リ

商主撫順炭輸出稅率ニ關シテハ本年四月下旬在牛莊領事
事務代理ヨリ清國海關稅章ニ依レハ湖北安徽廣西及開平
炭ノ輸出稅従リ一噸ニ付一枚トシ其他ハ盡ク之ヲ三枚ト規定
セハニ就テハ撫順炭ノ開平炭ト其境遇及貿路ヲ同フタルニ拘
ラス現時之ニ三倍ニル輸出稅ヲ課セラン居リ牛郎南ノ開
難不勘ルヲ以テ之ヲ改メテ開平炭兩擇一噸一枚ノ稅率ヲ適

用スル様其筋ノ支涉方ニ在清材官使ノ上早アリタルヲ以テ
五月下旬同石便ハ公文ヲ以テ右ノ鐵路事務部ノ照會ニ及ヒタルニ
六月下旬ニ至リ同部ノ我支涉ニ照復シテ開平炭等ノ稅額
ハ之ヲ以テ他ニ引援シテ例トナスヲ得ヌ且ツ撫順炭之清國ニ支
還セラルノキ件ニ就テハ更ニ別案トシテ辦理スノキ旨ニ傳
シタルカ同旨便シ於テハ該還付問題ニ付テハ最旱歸スルノ事
テハ依然當初ノ主張ヲ保持シテ其上又傍ヲ繼續シワケレモ
最近接到，報告ニ據ルハ清國政府之飽達撫順炭坑還付論
ヲ摺ニ取リ減稅ノ要求ハ斷然之ヲ拒絕しまじ由ナフ

MT

11248 00073

MT

11248 00072

REEL No. 1-0070

0043